

KEN TIMES

2021年 2月号



今月のインタビューは、
「野沢出張マッサージ
 サオリセラピイ」
 の齊藤沙織さんだぜい。



◆滑りの追求。



もっと上手くなりたい。そう思う気持ちがまた強くなってきました。最近は専ら子どもを連れてのスキーですが、皆さんのSNSなんかの写真や映像を見ていたら、やっぱりスキーは格好いいですね。もっとレベルアップしたい！改めてそう思いました。長年やっているスキーですが、バツチリ自分がイメージするように滑るのは、簡単ではありません。好きなスキーヤーの動画を見て、自分をそれに重ねて。…追求は楽しいものです。

◆おだんご。



丁前にエプロンもつけて。1月になれば各お家に「団子の木」が成っています。あれを見ると、豊かな気持ちになりますよね。あのお団子ですが…3回旨さが楽しめます。まずは、蒸かしたて。鍋の蓋を開けると、ふわっと米粉のいい香りがして、木にさす前に、アツアツの柔らかい団子に手が伸びます。もちろん、木から外した後の揚げたても止まりません。砂糖醤油に絡めて…これは王道です。そして、木に刺さったカチカチのお団子も、これまたいけます。口に入れた時はカチカチでそれこそ歯が立ちませんが、だんだん、じんわりと味が出てくる喜びを知るあなたは、マニアと呼んでいいでしょう。我が家家の木からは、外す日にはすでに半分のお団子が消えているとか…。

◆マイブーム再来。

キンキンにするのです。窓を開けて、雪にグサッと突っ込んで。ここへ来て、また日本酒が美味しいです。寒く、雪の降る日に、暖かい部屋で温かい料理を食べながらいただくお酒は、格別としか言いようがありません。この日はふるさと納税でゲットしたステーキとの共演です。…幸せです。



◆ハナーマスの宇宙。



◆南南東に黙々と。



恍惚の表情です。その習わしがいつからあったのかはわかりませんが、我が家でもちゃんと黙って頬張っておりました。「黙って食べる」ようになったのって、最近ではありませんでした？子どもの頃にそんなことをやった記憶がありません。調べてみると、全国的に定着したのは、98年にセブンイレブンが全国販売を始めたことがきっかけのようですね。起源は諸説ありますが、戦国時代前後のように、「恵方」とは、歳徳神という、その年の金運や幸せを司る神様のいらっしゃる方角だそうです。それは何としてもやらなければなりません！そして今年は124年ぶりに2月2日の節分。…僕は当日に知りました。

村山聖という棋士をご存知ですか？重い腎臓病と闘いながら、己の全てを「名人」になることに注ぎ、29歳の世でこの世を去った村山さんの生きた証がノンフィクションでこの本に描かれています。一将棋会館一古本屋一自宅アパート。自分の趣味と、「将棋に勝つこと」だけのためのそのシンプルな生活が羨ましくもあります。入院中のベッドの上でも、81マスの無限の宇宙を歩き、研鑽しする村山さんが光り輝いています。中でも心に残った一節を抜粋します。もし自分が病気でなければ、そう考えることは村山には何の意味もなかった。病気を抱えながら生きる自分が自分自身であり、それは切り離して考えることはできない。病気が自分の将棋を強くし、ある意味では自分の人生を豊かにしているのだと思った—純粋に、そして貪欲に。一つのものに情熱を注ぐことの幸せさを僕は感じました。ストレートに面白く、素晴らしい本です。

◆オレらのソリコース。

家の目の前に、除雪車が道路の雪を集めてきて出来る山が聳え立っています。その上にフカフカの新雪が積もり…とびっきりのソリコースが出来上がります。結構な斜度があるので、それなりにスピードが出て、正直大人が乗っても楽しいです。子ども達は途中から、ソリなしでコロコロ身体で転がり始めます。「わ～！」と声を上げながら、それを何回も繰り返します。青い空の下で、真っ白な雪と全力で戯れるのは、大人も子どもも、この上ない喜びです。



◆冬の夕焼け。

保育園の帰

り道ですね。
ここでも彼ら
は雪の山にひ
たすら登ります。冬の晴れ
た日の、特に
寒い日の夕焼
けは一段と綺
麗な気がしま
す。淡いオレ
ンジの空に、
青く浮かぶ妙
高山も見てい
るだけで心が
洗われるよう
です。さて、
帰ってお風呂
に入って、美
味しいご飯を

食べようか。

◆窓からの眺め。

雪 景色ばかりですね。…この写真は、僕が3番目の
「文(もん)」を抱きながら、家の中から外を見ています。
「力力」と「葉(よう)」が外で遊んでいます。2番目の「暖(だ
ん)」は足元でお昼寝中です。「平和な日曜の午後。」
僕はそう声に出して呟いてみました。ノルウェイの森で
あったのかな? 声に出すと、よりそれを感じることが出
来ます。そういううちに暖が目覚め、凄まじい泣き出
し、すぐにまた慌ただしい日常に引き戻されました。



◆いつも心に、道祖神。



当然、寂しいもので
すよ。道祖神のない
冬は。生まれた頃か
ら毎年目の前でやっ
ていて、それが初め
て行われないのです
から。…しかし、今
回はっきりとわかつた
ことがあります。僕は
今年、消防団員とし
て、野沢組惣代のみ
で行われた「どんど
焼き」の警備に回つ
ておりました。婦人の
家から「唄えばつけ

と、惣代さん達が道祖神の唄を始めた時、あの興奮、あの悦びが
強く心の中にあるのを、しっかりと感じました。

—そうか、僕らの心には、いつも道祖神の火が燃えているのか。
この地に生まれ育ったことを誇りに思います。